

3. まちづくりの現状と課題

3.1 伊那市の現状

①位置・地勢

本市は、長野県の南東部に位置し、南東側は山梨県と静岡県、西側は木曾地域に接する、人口約6万8千人の内陸都市です。市域の東に南アルプス、西に中央アルプスを有し、市内を北から南へ流れる天竜川、東から西へ流れる三峰川沿いに都市が形成されています。

広さは東西37.2km、南北44.7kmで、県内の市町村で3番目に広い667.93km²の行政区域を有しています。

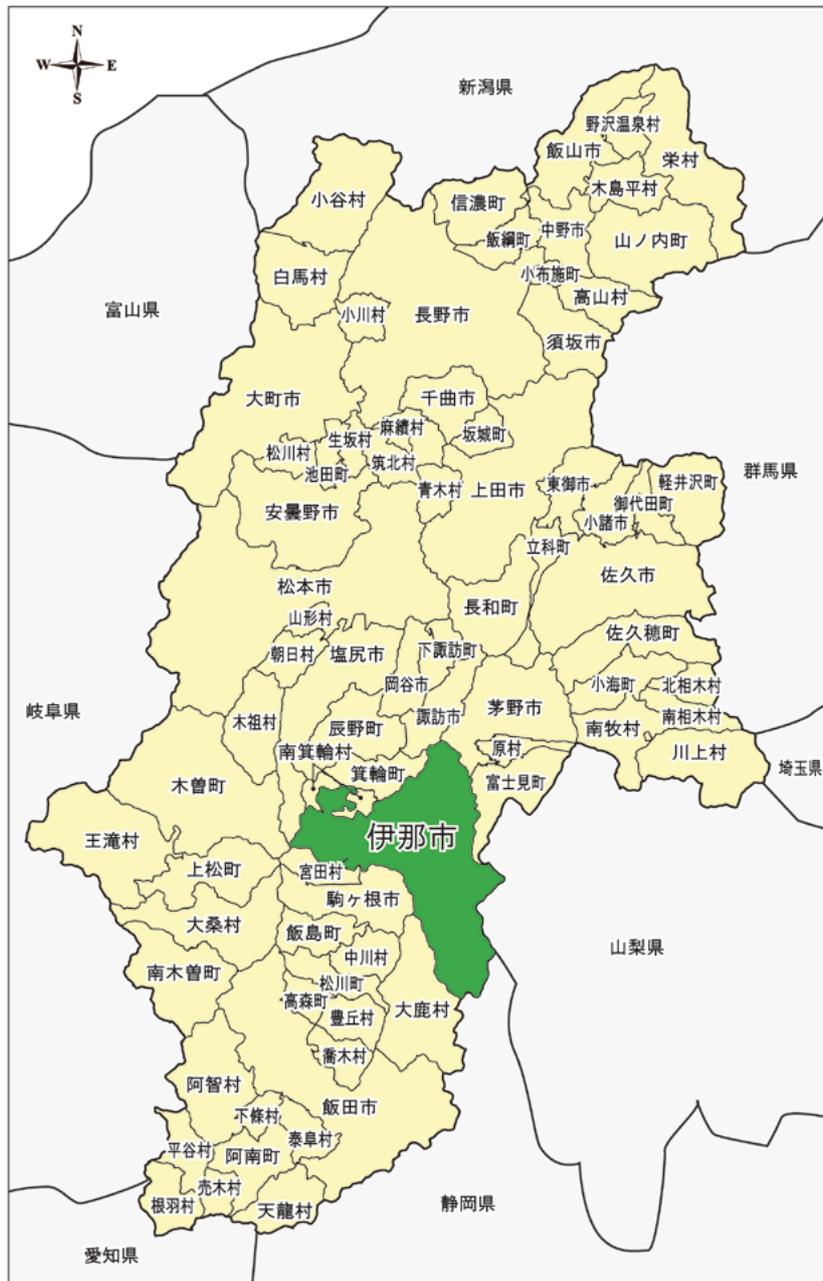


図 伊那市の位置

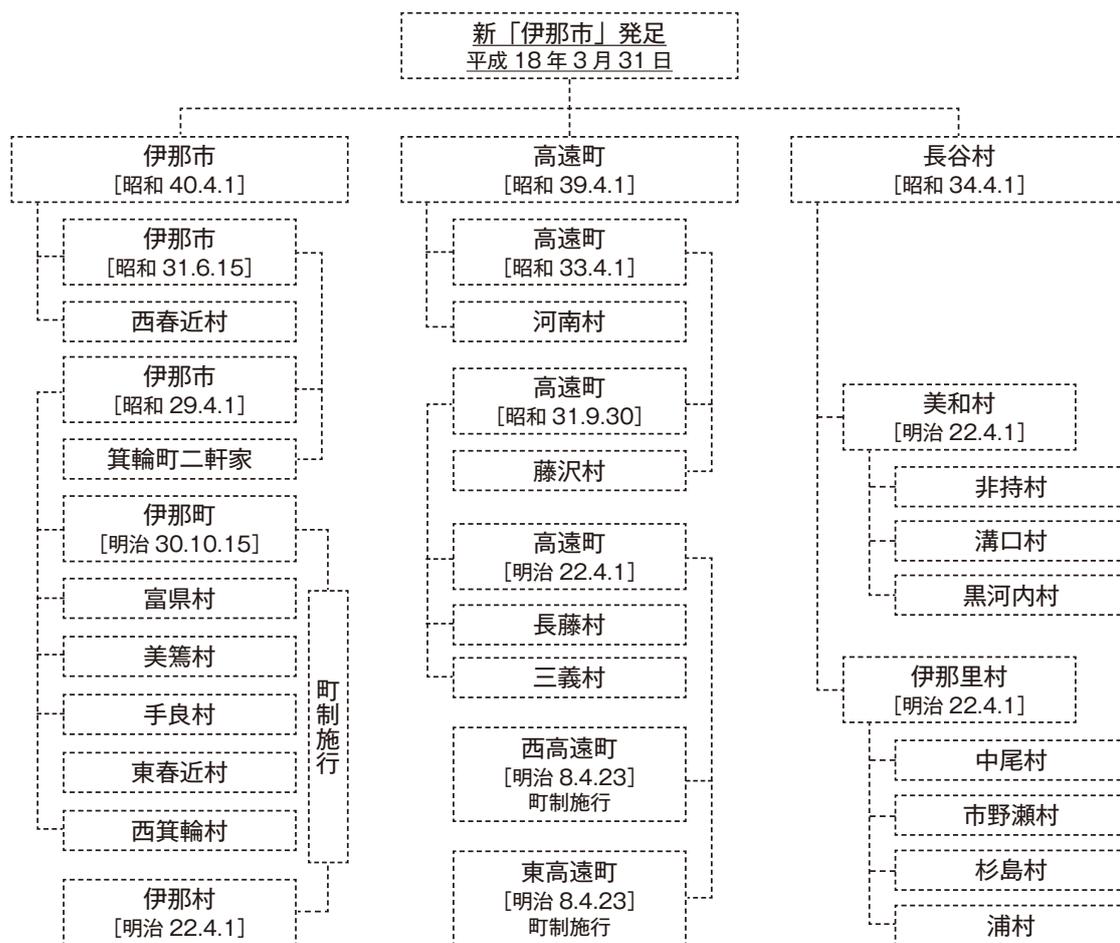
②沿革

縄文時代及び弥生時代の住居址である御殿場遺跡、鳥井田遺跡など多くの遺跡や遺物が、天竜川や三峰川の河岸段丘*上の台地に残っています。また、飛鳥～平安時代には東山道がこの地を通り、交通、交易が盛んであったとされ、麻布や鹿など朝廷への献上品もみられます。

中世には山麓や段丘の突端に、伊那の地侍が城館や砦を築いていましたが、天文14年(1545年)武田信玄の支配下となり、更に天正10年(1582年)には織田信長軍によって高遠城は落城し、やがて江戸時代になると高遠藩が成立しました。江戸時代には、天竜川右岸を通る伊那街道に伊那部宿が設置され、木曾方面最寄りの宿場町として庶民の往来で賑わいました。また、天竜川・三峰川沿いの新田開発や天竜川を利用した水運が行われました。

その後明治維新を迎え、明治8年(1875年)に高遠藩は西高遠町・東高遠町となり、同12年(1879年)に郡役所が当時の伊那村に設置されると、上伊那の政治・経済・産業などの中心は順次高遠から伊那に移り、以降現代まで上伊那の中心都市として発展を遂げています。

平成18年(2006年)3月には、旧宿場があり商工業の盛んな伊那市、旧城下で史跡とタカトオコヒガンザクラの高遠町、南アルプスの自然と多くの民話伝承の長谷村が合併し、現在の伊那市となりました。



参考：伊那市統計書令和2年版

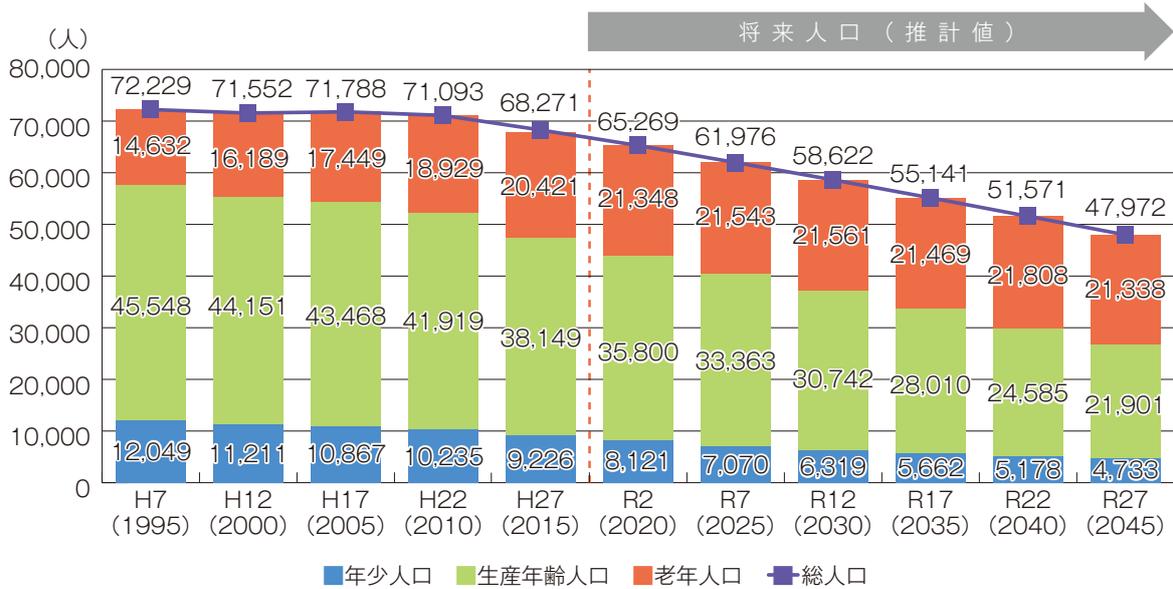
図 明治以降の合併の経緯

③人口

1) 人口の推移

本市の人口は平成22年（2010年）まで約7万人でしたが、平成27年（2015年）に68,271人となり、今後は人口減少が進むと予測されています。

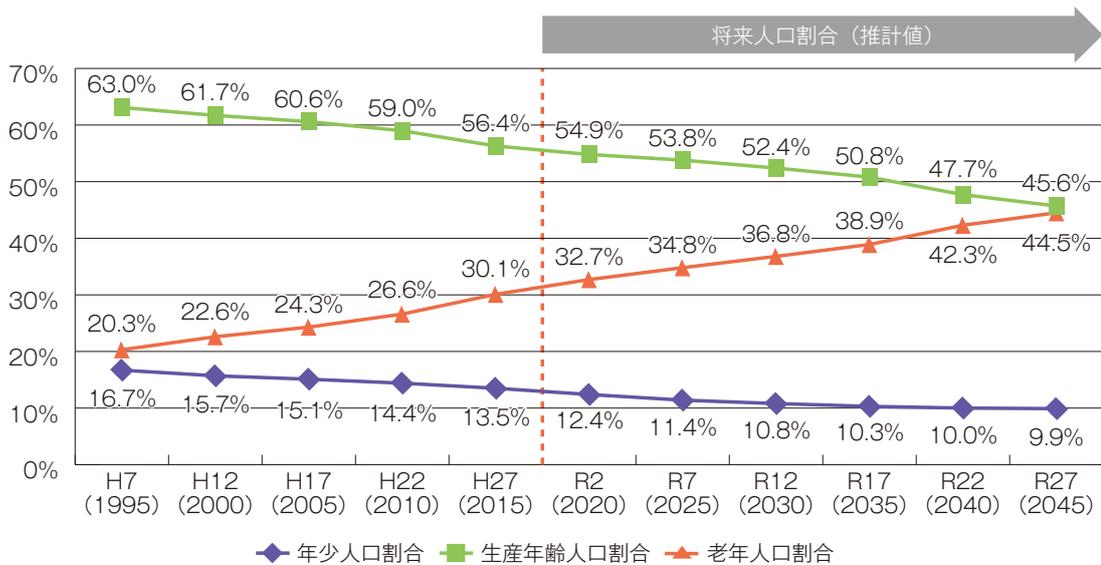
平成27年（2015年）までの年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳以上64歳未満）の減少が続いている一方で、老年人口（65歳以上人口）は増加し続けています。今後も少子高齢化が続き、令和27年（2045年）には年少人口が4,733人（9.9%）、生産年齢人口が21,901人（45.6%）、老年人口が21,338人（44.5%）となることが予測されています。



※ 総人口に年齢不詳を含む。

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 年齢3区分別人口の推移と推計



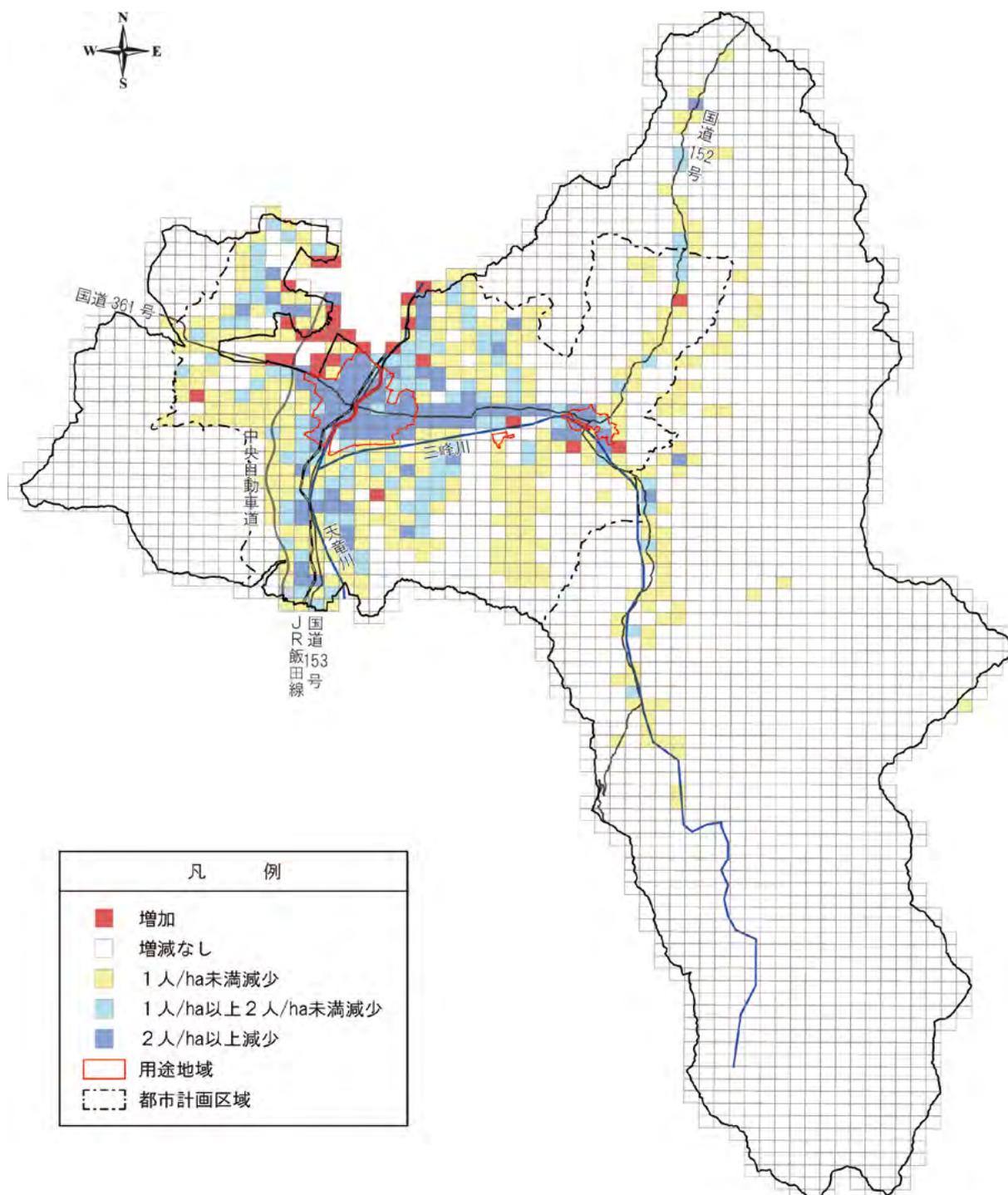
※ 平成27年（2015年）の値は、年齢不詳を按分した人口を基に算出した値

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 年齢3区分別人口構成比の推移と推計

2) 人口密度

平成 27 年（2015 年）から令和 22 年（2040 年）にかけての 500 m メッシュ別人口密度増減をみると、一部の地域では人口密度の増加が予測されますが、ほとんどの地域で人口密度の減少が予測されます。特に用途地域*内や天竜川より東側の国道 361 号沿いで減少が顕著です。



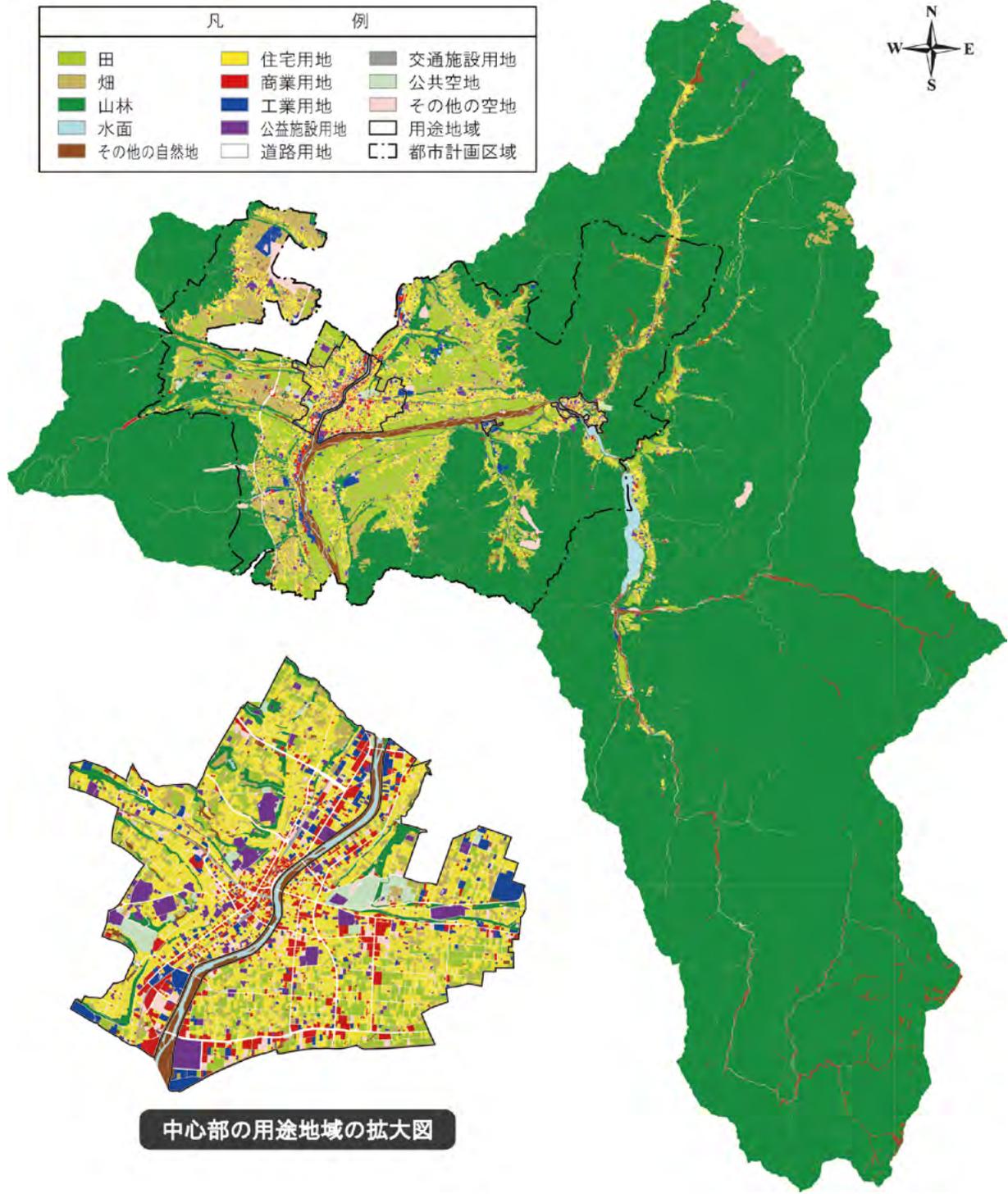
資料：国勢調査、国土数値情報

図 500 mメッシュ別人口密度増減（令和 22 年（2040 年）－平成 27 年（2015 年））

④土地利用

本市の土地利用は東西が山林地域となっており、天竜川や国道などの主要道路沿いに宅地、その周囲に農地が広がっています。

中心部の用途地域内では、住宅用地などの宅地が大部分を占めていますが、農地が残存しています。また、その他の空地も散見され、伊那市駅や伊那北駅周辺の中心市街地における空洞化が懸念されます。一方、西春近の天竜川沿いでは、用途地域の指定のない区域でまとまった商業用地が見られます。



資料：平成 30 年度伊那都市計画基礎調査

図 土地利用現況

⑤ 都市施設

本市の都市計画道路は 21 路線が都市計画決定されており、総延長 54,030 mのうち 24,750 m (45.8%) が改良済となっています。

公園・緑地は、伊那公園など 3 公園が都市計画決定されており、計画面積 34.6ha のうち 27.3ha が供用されています。また、その他に未計画決定の都市公園が 11 箇所あります。

その他の都市施設としては、下水道や汚物処理場などが都市計画決定されており、伊那都市計画下水道が一部未整備、それ以外の都市施設は整備済となっています。

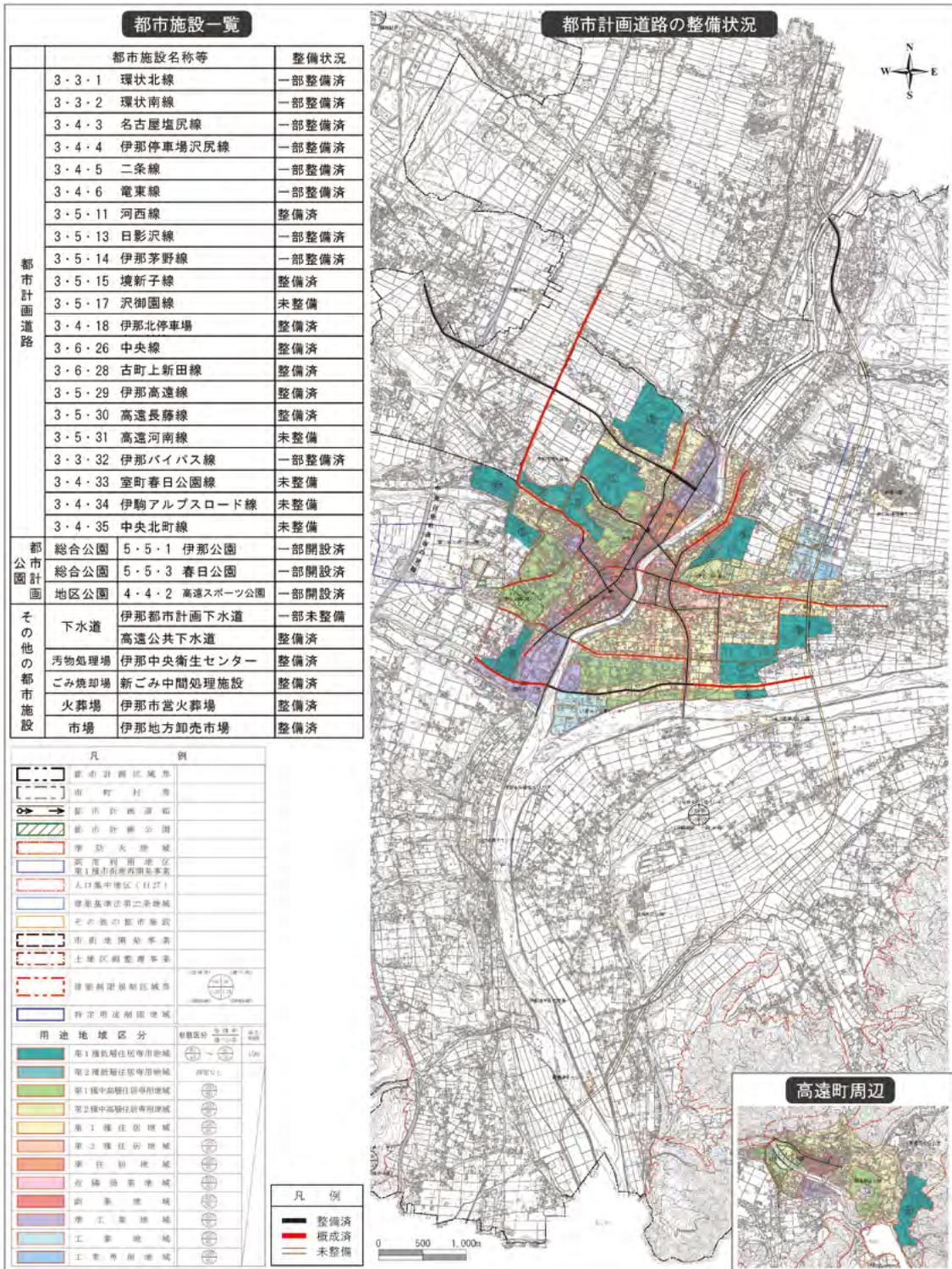


図 都市施設一覧と都市計画道路の整備状況

資料：都市整備課

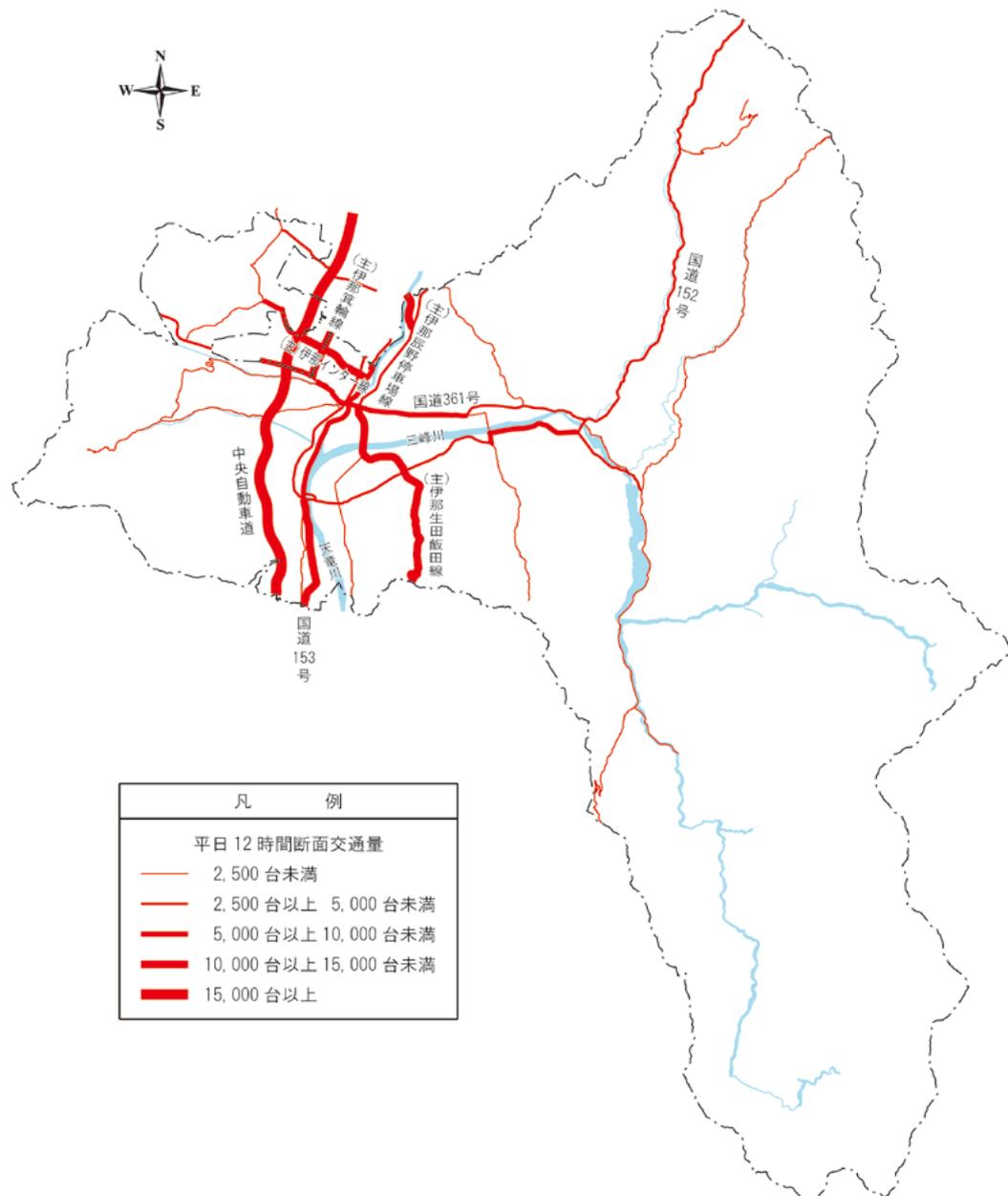
⑥交通体系

1) 道路網

市内を南北に連絡する道路は中央自動車道、国道 152 号及び 153 号を軸に、主要地方道伊那辰野停車場線、主要地方道伊那生田飯田線等が整備されています。また、東西を連絡する道路は国道 361 号線や主要地方道伊那インター線、一般県道伊那インター西箕輪線、一般県道沢渡高遠線等が主な交通を担っています。

主要道路の断面交通量は、中央自動車道で 1 万 5 千台以上、国道 153 号の一部や主要地方道伊那生田飯田線、主要地方道伊那箕輪線、主要地方道伊那インター線で 1 万台以上 1 万 5 千台未満と、交通量が多くなっています。

また、主要道路の多くは中心市街地を通過しており、天竜川や段丘崖*などの地形的条件、JR 飯田線の踏切などにより、朝夕の交通量が多くなる通勤時間帯に渋滞が発生しています。



資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査

図 主要道路の断面交通量

2) 自動車保有台数と公共交通

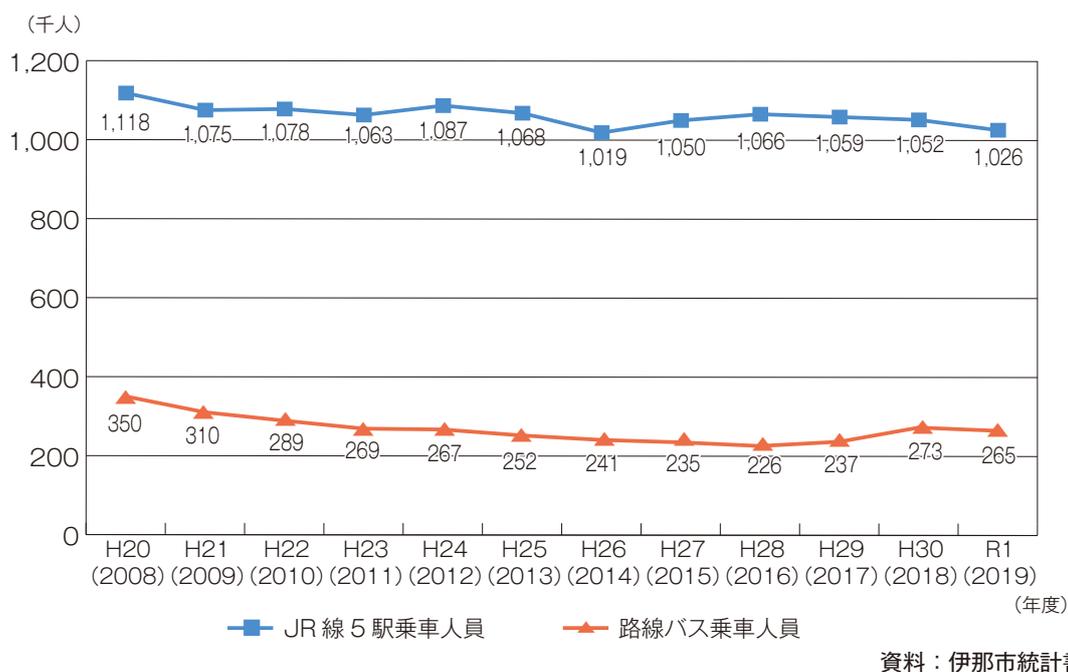
自動車（乗用車・軽自動車）保有台数の推移をみると、平成 22 年度（2010 年度）から平成 27 年度（2015 年度）の間に約 2 千台増加し、以降は横ばいとなっています。

一方、公共交通は J Rバスや地区循環バス等の路線バスと J R 飯田線があり、鉄道駅は伊那北駅・伊那市駅・下島駅・沢渡駅・赤木駅の 5 駅があります。路線バス及び鉄道駅の年間乗車人員の総数の推移をみると、ともに微減傾向にあります。

今後は、高齢社会への対応や環境負荷の低減の観点から、自動車利用から公共交通利用への転換が必要です。



図 自動車保有台数の推移



※ 路線バス乗車人員に西春近線、西箕輪循環タクシー、市内北循環タクシー、伊那本線は含まない。

図 バス及び鉄道の年間乗車人員の推移

⑦景観

本市は、南アルプス、中央アルプスの緑豊かな山岳、両アルプスからの清流を集める多くの支流、シンボリックな景観を形成している段丘緑地や森林、広大な農地など、自然景観に恵まれています。また、高遠城址公園や宿場町として栄えた伊那部宿など、文化的・歴史的な景観も数多く残されています。

これらの景観を保全するため、本市では平成25年（2013年）に景観行政団体に移行し、平成26年（2014年）に伊那市景観計画を策定しています。その後、同年4月より伊那市景観計画及び伊那市景観条例を全面施行し、景観と調和したまちづくりを進めています。

屋外広告物については、伊那市景観計画で屋外広告物等に関する景観形成方針が定められています。これを受け、伊那市屋外広告物条例を制定し、市内の屋内広告物についての具体的な基準を定めています。

また、景観の維持・形成等を目的として、13件の住民協定及び1件の建築協定*が締結されています。

表 景観に関する住民協定等一覧

No.	協定の名称	決定年月日	No.	協定の名称	決定年月日
1	城下町高遠・まちづくり協定	H6.12.9	8	美原区景観形成住民協定	H13.1.25
2	暁野地区建築協定	H7.2.20	9	上山田地区金井河原田園地帯景観協定	H12.12.1
3	美しいまち暁野区景観形成住民協定	H8.1.21	10	下山田河原地区田園地帯景観協定	H14.7.1
4	青島区田園地帯景観形成協定	H8.12.15	11	小原景観協定	H14.9.30
5	未来通り住民協定	H10.6.3	12	西箕輪ふるさと景観住民協定	H17.3.15
6	中条ふるさとづくり協定	H11.10.19	13	御園区内原地区景観形成住民協定	H18.8.28
7	美しい勝間景観協定	H11.3.19	14	福島地区景観育成住民協定	H22.4.9

資料：平成30年度伊那都市計画基礎調査



本市の景観の特徴である河岸段丘

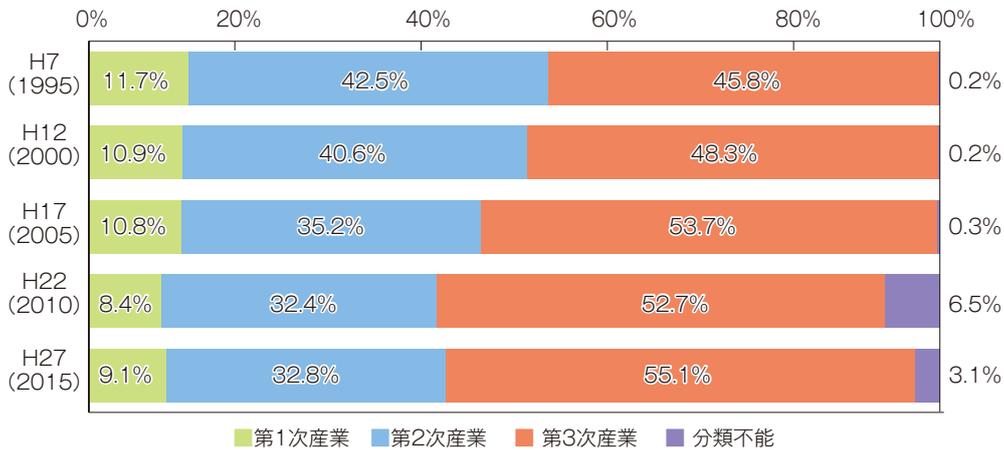


国指定重要文化財の熱田神社

⑧産業

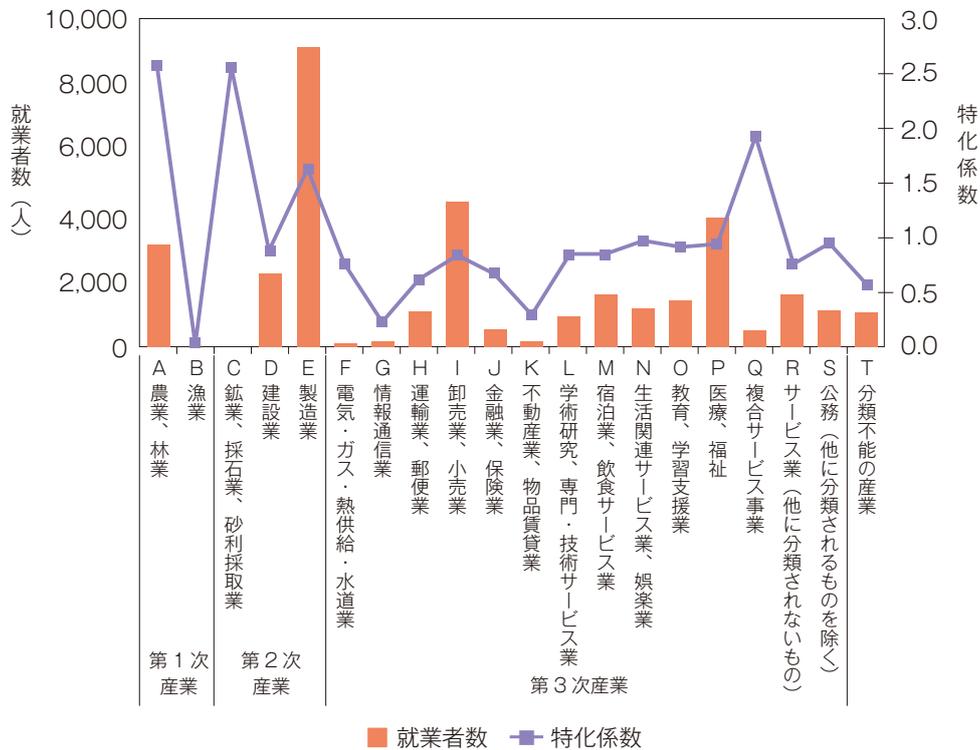
産業3区分別就業者数構成比の推移をみると、農業や林業等の第1次産業と製造業や建設業等の第2次産業は減少傾向にあります。一方、小売業や宿泊業、医療・福祉等の第3次産業は増加傾向にあり、第1次産業人口と第2次産業人口が第3次産業人口へ移行していると推測されます。

また、平成27年（2015年）の産業大分類別就業者数をみると、製造業が突出して多く、特化係数も1.0を超えていることから、製造業は本市の特徴的な産業といえます。



資料：国勢調査

図 産業3区分別就業者数構成比の推移



※ 特化係数：「本市の産業別就業者比率」÷「全国の産業別就業者比率」で算出。産業別就業者比率が全国平均と比較してどの程度の偏りがあるかを調べる方法で、特化係数が1.0を超えていれば全国平均に比べ相対的に特化しているといえる。

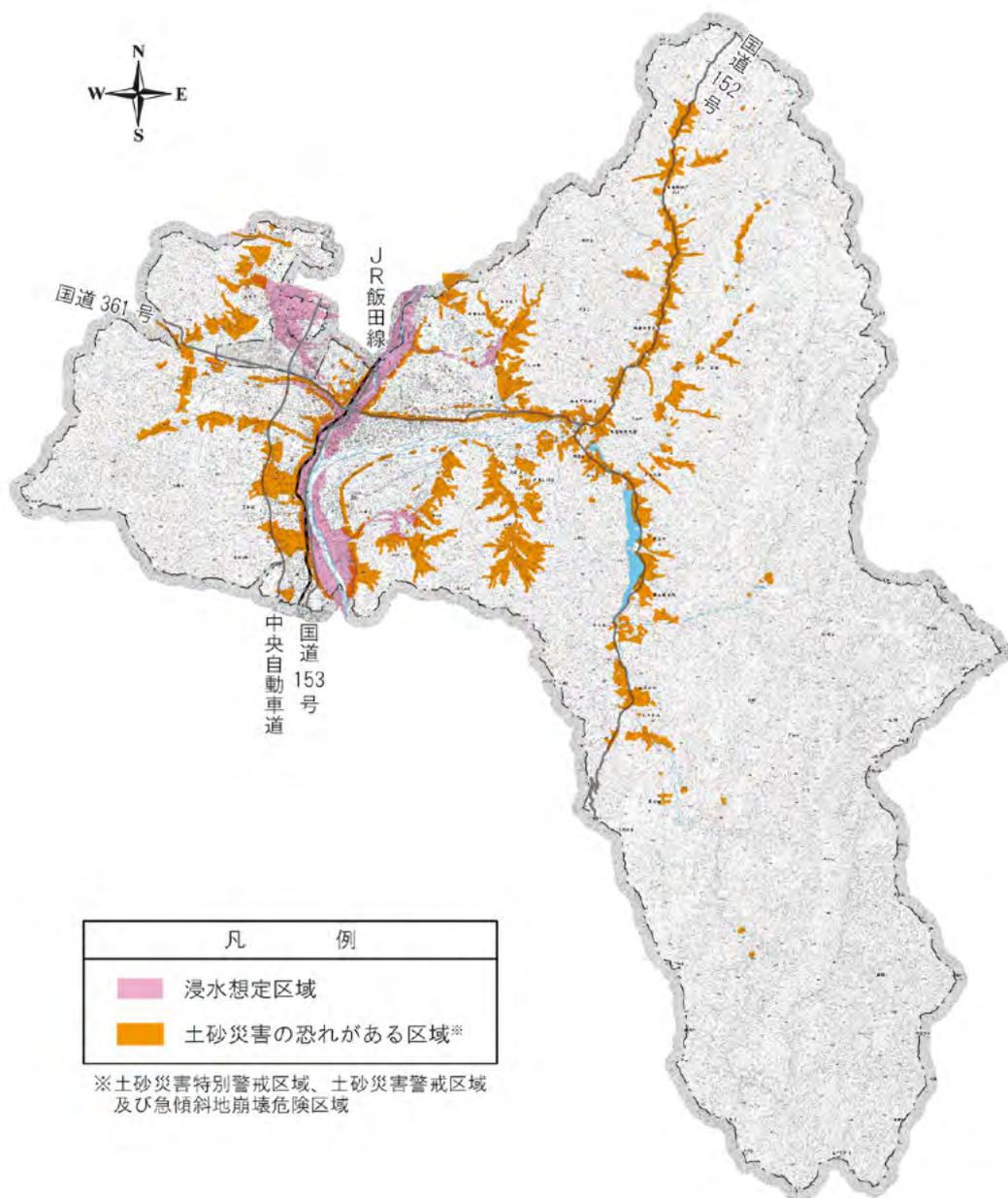
資料：国勢調査

図 平成27年（2015年）の産業大分類別就業者数と特化係数

⑨災害

本市は一級河川*の天竜川や三峰川をはじめ多くの河川があり、河岸段丘等による急峻な地形であることから、過去には昭和36年(1961年)梅雨前線豪雨や平成18年(2006年)7月豪雨等により大規模な水害・土砂災害が発生しています。さらに、近年の急変する気象状況等により水害や土砂災害が発生する危険が高まっています。また、市内の河川に架かるいくつもの橋梁が道路網を支えており、落橋等による交通の分断や集落の孤立が危惧されます。

地震については、本市は南海トラフ地震*の「地震防災対策推進地域」に指定され、いつ大規模な揺れが起きてもおかしくない喫緊の状況が続いています。また、本市の東側には糸魚川―静岡構造線断層帯*が走り、竜西地区には南北に伊那谷断層帯*主部が延びていることから、これらの断層を起因とする大地震も懸念されます。



資料：伊那市防災マップ、信州くらしのマップ

図 浸水想定区域と土砂災害の恐れがある区域

3.2 住民意向

① アンケート調査

1) 調査の目的

伊那市都市計画マスタープランの改定及び伊那市立地適正化計画の策定に際し、これからの伊那市や住まいについての考え、また、住民のまちづくりにおける満足度や重要度等について把握し、住民の意向を計画の改定や策定に反映することを目的としました。

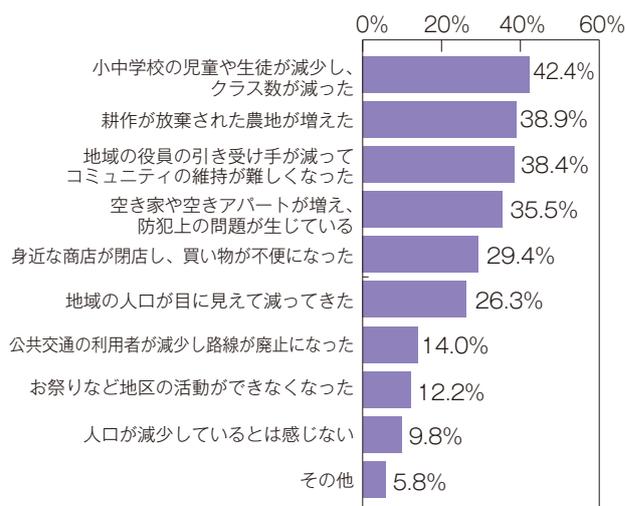
2) 調査の概要

調査対象	過去のアンケートの年代別回答状況から傾斜配分により抽出した、住民票における満 18 歳以上の男女 2,000 人
調査方法	配布方法：郵送 回収方法：郵送または市役所都市計画課窓口へ持参
調査期間	令和元年（2019 年）9 月 19 日（木）～ 10 月 7 日（月）（投函締切日）
回収状況	有効回収数 745 通（回収率 37.3%）

3) 主な住民意向

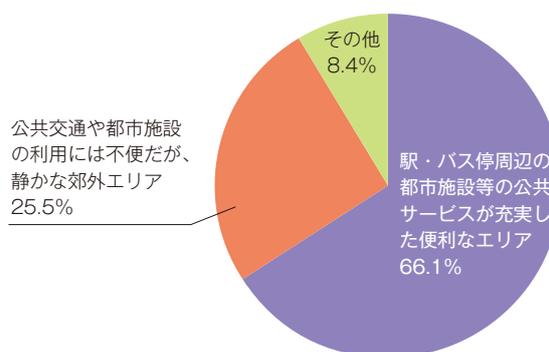
【人口減少社会における身近な状況変化】

人口が減少することで起こっていることは、「小中学校の児童や生徒が減少し、クラス数が減った」が 42.4%と最も多くなっています。また、「耕作が放棄された農地が増えた」、「地域の役員の引き受け手が減ってコミュニティの維持が難しくなった」、「空き家や空きアパートが増え、防犯上の問題が生じている」といった項目が 35%を超えています。



【望ましい将来の居住場所】

多くの市民が住む場所として、どのような環境の場所が望ましいかは、「駅・バス停周辺の都市施設等の公共サービスが充実した便利なエリア」が 66.1%と最も多くなっています。

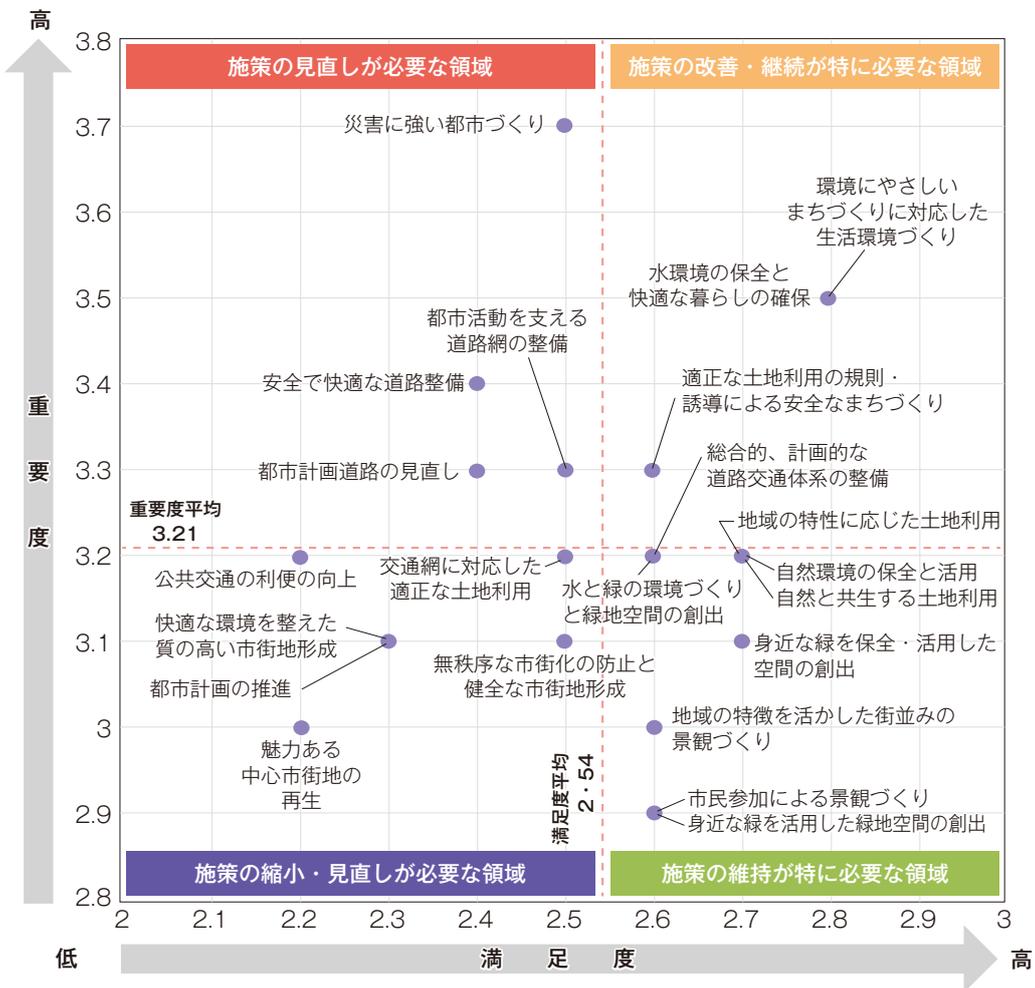


【まちづくりへの満足度・重要度】

それぞれの施策の重要度と満足度については、満足度の「満足」から「不満」まで、重要度の「重要」から「重要でない」までの回答順に4～1のポイントを付け、それに回答数を乗算した数値の平均値を施策別に算出しました。また、満足度をX軸、重要度をY軸とし、相関を散布図に示しました。なお、4つの領域を区分する満足度と重要度の平均値は、すべての施策の平均値としました。

「災害に強い都市づくり」、「安全で快適な道路整備」等の施策は、平均値より満足度が低く、重要度が高くなっており、見直しの必要な領域に属しています。

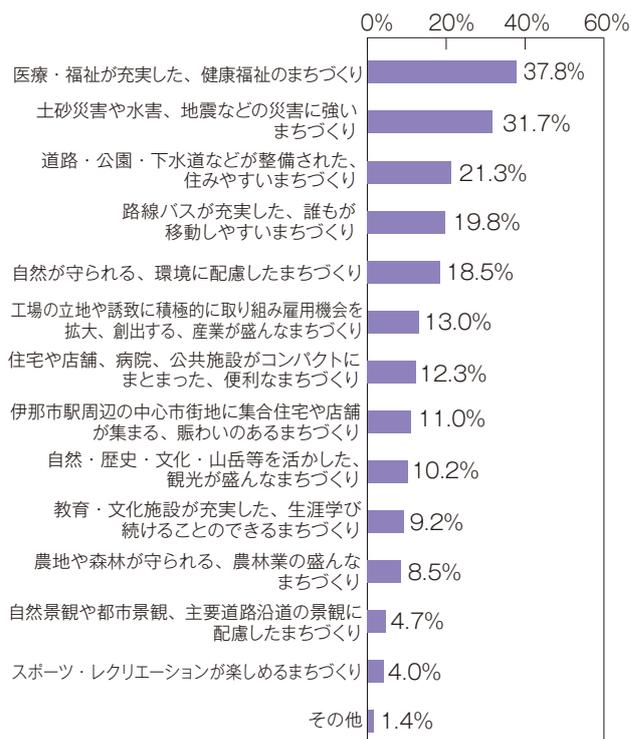
また、「魅力ある中心市街地の再生」、「快適な環境を整えた質の高い市街地形成」等の施策は満足度・重要度ともに平均値より低く、施策の縮小・見直しが必要な領域に属しています。



施策の見直しが必要な領域	〈重要度が高く満足度が低い領域〉 市民が求めている施策の内容と、実施している施策の内容が不整合を起している、施策への取り組みが十分でないため、施策の内容等の見直しが必要な領域と判断できる。
施策の改善・継続が特に必要な領域	〈重要度が高く満足度も高い領域〉 市民が施策の内容について概ね満足しており、さらなる改善も含めて重点的に改善していくことが必要な領域と判断できる。
施策の縮小・見直しが必要な領域	〈重要度が低く満足度も低い領域〉 今後の推移によっては、施策の縮小、廃止を検討する領域と判断できる。
施策の維持が特に必要な領域	〈重要度が低く満足度が高い領域〉 市民が施策の内容について概ね満足しているが、重要度は高くないため、現状の施策の維持が重要な領域と判断できる。

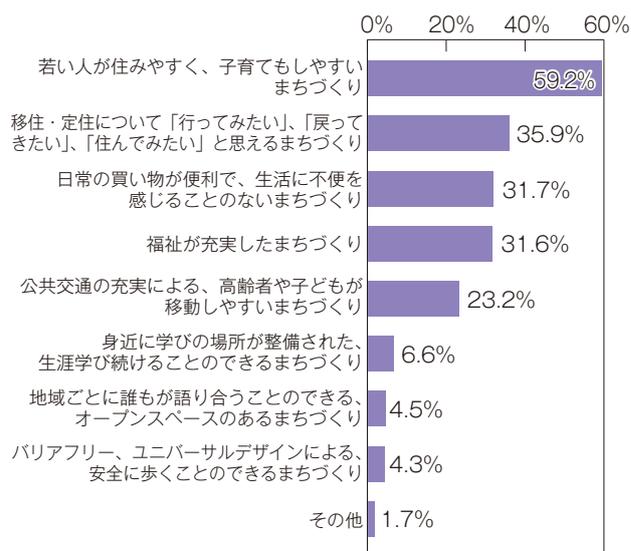
【まちづくりの発展方向】

今後どのような方向に発展することが望ましいかは、「医療・福祉が充実した、健康福祉のまちづくり」が37.8%と最も多く、次に「土砂災害や水害、地震などの、災害に強いまちづくり」が31.7%となっています。



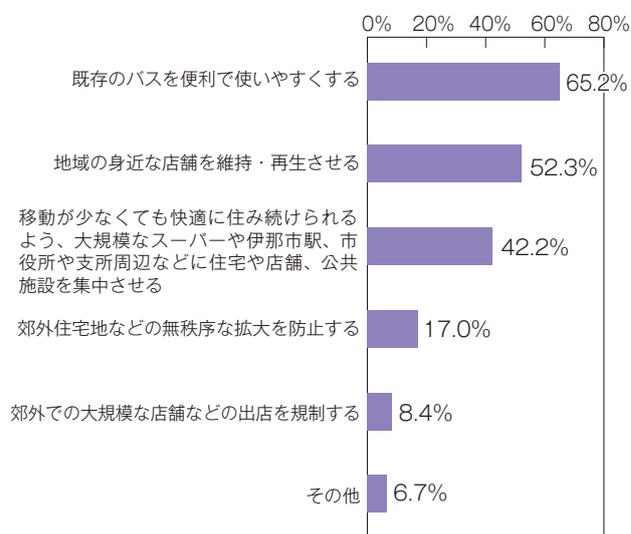
【少子高齢社会における発展方向】

少子高齢社会において重点的に行うことが望ましいまちづくりは、「若い人が住みやすく、子育てもしやすいまちづくり」が59.2%と突出して多くなっています。



【公共交通維持等に必要施策への考え】

公共交通を維持し、生活に必要な施設を集積させるまちづくりに向け、重点的に行うべきことは、「既存のバスを便利で使いやすくする」が65.2%と最も多く、次に「地域の身近な店舗を維持・再生させる」が52.3%となっています。



②ワークショップ

1) ワークショップの目的

伊那市都市計画マスタープランの改定及び伊那市立地適正化計画の策定に際し、住民意向を反映した実効性の高い計画の策定を目指す観点から、地域住民のまちづくり（都市計画）に対する要望や課題の把握を行うことを目的としました。また、併せて地域住民の皆様に計画の概要を説明し、御理解頂くことも目的としました。

2) ワークショップの概要

開催日 開催場所	○令和2年（2020年）8月25日（火）防災コミュニティセンター ○令和2年（2020年）8月29日（土）美篤公民館 ○令和2年（2020年）9月1日（火）東春近公民館 ○令和2年（2020年）9月4日（金）高遠町総合福祉センターやますそ
参加人数	73名（4日間延べ人数）
プログラム概要	○伊那市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の概要説明 ○アンケート調査結果等の説明 ○ワークショップの位置づけの確認 ○グループ会議（都市計画への要望の把握） ○情報共有

ワークショップの様子



3.3 まちづくりの課題

本市におけるまちづくりの課題を整理すると下記のとおりとなります。

表 まちづくりの課題

項目	課題
人口・少子高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少の抑制が必要です。 ○少子化に対応し、少子化を抑制するまちづくりが求められており、子育て支援施設や小中学校の適正配置について検討が必要です。 ○高齢社会に対応したまちづくりが必要です。 ○地域コミュニティの維持が必要です。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○適正な土地利用の誘導により、コンパクトで持続可能なまちづくりを進める必要があります。 ○国道 153 号伊那バイパス及び伊駒アルプスロード等、新たに建設される道路沿線の土地利用のあり方について定める必要があります。 ○用途地域の指定のない区域の商業集積が見られる箇所について、用途地域指定区域への編入の検討が必要です。
市街地	<ul style="list-style-type: none"> ○伊那地域及び高遠町地域の中心市街地における空洞化の抑制が必要です。 ○伊那北駅・伊那市駅周辺の魅力の向上が必要です。 ○空き家、低・未利用地の活用が必要です。
道路	<ul style="list-style-type: none"> ○国道 153 号を主とする中心市街地周辺の道路における慢性的な混雑の解消が必要です。 ○国道 153 号伊那バイパス及び伊駒アルプスロード、環状北線の早期実現が必要です。 ○狭あい*箇所の拡幅や歩道の設置等による、安全な道路の整備が必要です。 ○長寿命化等による道路・橋梁の維持管理コストの削減が必要です。
上下水道	<ul style="list-style-type: none"> ○下水道の整備・利用の促進が必要です。 ○長寿命化等による上下水道施設の維持管理コストの削減が必要です。
公園・緑地・その他公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ○都市公園や公共施設の適正な配置が必要です。 ○長寿命化等による都市公園や公共施設の維持管理コストの削減が必要です。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢社会への対応やゼロカーボン*・低炭素まちづくりの観点から、公共交通の利用促進及び自動車依存社会からの転換が必要です。 ○公共交通の利便性の向上が必要です。
景観	<ul style="list-style-type: none"> ○新たに建設される道路も含め、周辺環境と調和する沿道景観の形成について検討が必要です。 ○段丘緑地、河岸段丘など、特徴的な景観を保全する必要があります。 ○高遠町の国道 361 号沿い等の歴史的景観を保全し、有効活用する必要があります。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ○農林業・商工業・観光の振興を支援することのできる都市基盤整備の推進が必要です。 ○伊那北駅・伊那市駅周辺及び高遠町総合支所周辺の魅力の向上が必要です。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ○河川災害・土砂災害・地震などの災害に対して強いまちづくりが必要です。